

主 文

本件上告を棄却する。

上告費用は上告人らの負担とする。

理 由

上告代理人赤塚宋一の上告理由について。

裁判所が証拠を排斥するにつき、その排斥の理由をいちいち説示する必要のないことは、当裁判所の判例とするところである（昭和三〇年（オ）第八五一号同三二年六月一日第三小法廷判決、民集一一卷六号一〇三〇頁）。されば、原審が採用しなかつた所論証拠について所論の如く判示しても、なんら違法はない。論旨は、ひつきよう、原審が適法にした証拠の取捨判断、事実の認定を非難するに帰するものであつて、すべて採用することができない。

よつて、民訴法四〇一条、九五条、八九条、九三条に従い、裁判官全員の一致で、主文のとおり判決する。

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	田	中	二	郎
裁判官	石	坂	修	一
裁判官	五	鬼	上	堅
裁判官	横	田	正	俊
裁判官	柏	原	語	六